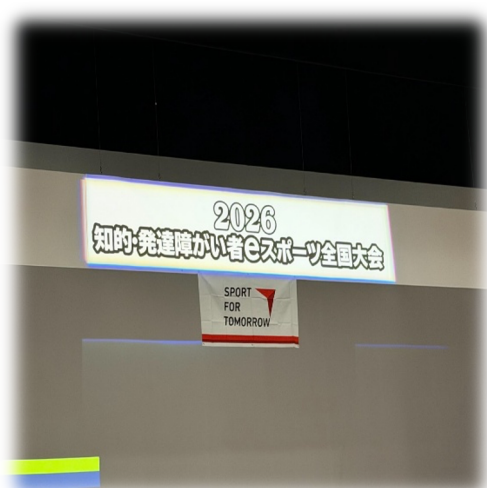


知的、発達障がい者 e スポーツ交流プログラム

【実施報告書】



2026年9月

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会

ANISA
All Nippon ID Sport Association

<はじめに>

近年、スポーツの新たなトレンドとしてeスポーツ（Electronic sports）が注目を集めています。eスポーツは、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、誰もが参加できるスポーツであり、共生社会の実現、多様な主体におけるスポーツ機会の創出に貢献する可能性を秘めています。一般的に、知的障がい者や発達障がい者（自閉症を含む）は、他者との円滑なコミュニケーションに関して、苦手意識を持つ事が多いとされています。一方、他者との交流は、その過程で獲得される、能力や態度および今後の生活に大きな影響を与え、その後の人生が豊かになる一助になる事が期待されます。つまり如何にしてコミュニケーション力を育むかを考えた場合、程よい距離感を保ちつつ、ゲームという媒体を通じ、自己肯定感などを育む事が可能なeスポーツは、大きな役割を果たし、そのような場（大会）を継続的に提供する事は社会的意義が大きいと考えられます。

現在、日本パラスポーツ協会内においても、eスポーツを主とする競技団体は存在しておらず、日本の知的障がい者スポーツを統括する当団体が、その担い手としての役割を示す事は非常に重要であり期待されています。また、特にアジア圏において、eスポーツは活発に開催されており、当該者が新たな活躍の場として、スポーツを通じたQOL向上に寄与するものと大いに期待しております。

そこで当協会は、知的障がい者、発達障がい者（自閉症を含む）のための国内唯一のeスポーツ大会（プログラム）の継続的な実施を目指しております。特に今年度は、アジア大会を見据え、台湾から視察団を招聘し、次年度以降、台湾や韓国などのアジア各国からの参加を促し、規模の拡大に務めます。

最後に、同プログラムは、糸満市が共催となり、eスポーツ大会だけでなく、講演会も予定されています。更に翌日には糸満市の名所を巡る観光プログラムも実施するなど、内容は盛りだくさんです。

同プログラムを通じて、友情の「輪」も広がることを切に期待しております。

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会
会長 斎藤 利之

【1】 日程

<9月11日（金）>

18時～21時：会場準備

○沖縄組

18時前までに必要な機材などを予め準備し、開場と共に、くくる糸満のスタッフと連携しながら準備作業を開始。

○東京組

18時に那覇空港着。空港からそのままホテルへ移動。必要に応じてメール・電話にて確認

○糸満市役所

事前に、必要な人員配置などを確認。

【2】 参加者

（人）

	プロプロ	ストリート6	講演会	観光
事前申し込み	25	16	17	8
当日参加	16（当日受付1）	5	14（当日参加3）	3
当日欠席	6	4	6	3
前日欠席	4	7	0	4

■結果■

<プロプロの部>

優勝： 仲里 太一 様

準優勝： 神里 奏人 様

<各賞>

糸満市長： 武島 豪琉 様

WAVE 賞： 仲吉 朝済 様

ANiSA 賞： 仲里 太一 様

*尚、今年度はライセンスの関係で、ストリートファイター6に関しては、順位付けが出来ない。

【3】 プログラム（スケジュール）

<9月12日>

08:30～09:15	受け付け準備・スタッフ集合（打ち合わせ）
09:15～09:45	選手ウォーミングアップ（自由）
09:45～10:00	式典準備
10:00～10:10	開会あいさつ（斎藤）
10:10～10:15	来賓あいさつ（糸満市長）

10:15~10:30	準備・大会ルール説明（手登根）
10:30~12:00	予選リーグ
（11:00~11:30）	講演会準備 ＜昼食休憩＞
12:10~13:30	講演会（斎藤）※延長／決勝トーナメント準備
13:00~15:30	決勝トーナメント ※Gorou 選手とのエキシビジョン
15:50~16:10	表彰式閉会の挨拶
16:10~16:20	記念撮影
16:20~16:40	片付け撤収
16:40~	解散

<9月13日>

08:45~	台湾視察団（2名）をホテルでピックアップ
09:00~10:15	沖縄県平和記念資料館
10:30~11:00	琉球ガラス村
11:00~12:00	糸満市道の駅
12:00~	台湾視察団解散（道の駅にて）
12:10~	参加者解散（市役所にて）

【4】得られた成果と反省（課題）

前回の反省を踏まえ、2026年4月から糸満市様およびRSS様と月一度のZOOM会議を実施して参りました。もちろん、その間もメールでのやり取りを何度も行い、7月下旬には対面にて（糸満市役所）最終うち合わせを行った結果、当日は運用面で大きな混乱が起きず、十分な連携・協力が出来たのではないかと思います。特に、人的リソースに関しては、同市のご協力により、昨年度（第1回目）よりも1名増加して当日の活動をサポートして頂けたことは大変心強く感じました。

本番当日に、混乱しないように事前の準備が十分だったことも要因としてありますが、同プログラムのサイズ感として、適正な人員配置だったと感じております。

また特に今回は、台湾からの視察団（2名）をお迎えし、プログラムを遂行してきた関係もあり、同市からは、上記以外にも、通訳1名を別途配置して頂いたことも大きな成果だったと思います。

そして、運営面での気づきとして、参加予定者の突然のキャンセル（今回はインフルエンザによるキャンセルもありましたが）による対戦表の作り直しや、当日の無駄欠席、逆に当日の参加要望など、前回以上に苦労があったと認識しております。臨機応変な対応はできる限り行いますが、今後、大会が大きくなるにつれ、物理的にできなくなることも予想されます。その対策としては、参加者は必ず当日参加することを前提とし、事前の参加料（現在は無料）の振込みが必要ではないかという意見が出ました。もちろん、インフルエンザなどの感染症は仕方ありませんが、事務局へ一切の連絡がなく不参加というのは、決して障がい特性という文脈だけで片付けてはいけないと考えます。「約束」は「約束」です。時間も守れていないのも気になります。

多くの苦労はありましたが、いずれにしても、参加者の皆さんが大変楽しく競技され、運営者側がほっこりする場面が何度もありました。また、保護者様のご様子も間近で感じることができ、大

大変満足しております。

一方、講演会ですが、こちらにも急遽キャンセルが多く発生しておりました。e スポーツ大会同様に、今後は対策が必要かと思います。一方、当日のご参加として沖縄県教育委員会の職員の方々や大学教員の方々もご参加頂き、テーマ（内容）については、一定程度、満足を頂けたかと思います。また、昼休みの時間帯ということもあり、お食事をとりながらの講演会も良かったのではないのでしょうか。

最後に、観光（文化交流）に関しては、参加者は台湾からの視察団（2 名）様と当事者 1 名のみということもあり、こじんまりとしたものとなりましたが、特に台湾からの視察団の方々には、沖縄県平和資料館において大変興味深く拝見されていました（多言語対応の翻訳機を活用）。

【5】 Gorou 選手他の感想

今回は 2 回目の開催となり、特にぶよぶよ部門では参加者全体のレベルが向上し、各選手が練習の成果を存分に発揮しておりました。

知的・発達障害がある方々にとって、挑戦や交流の場として非常に価値のあるイベントだと感じております。予選では同伴者や観戦者が後方から選手を応援できるようになっており、会場全体が一体となって、前回以上に盛り上がる大会となりました。また、対戦台を複数用意したことで、前回に比べて進行もスムーズに行えたと思います。

今後もさらに多くの方に挑戦・交流の機会が広がっていくことを期待しており、皆様と一緒にこの大会を盛り上げ、応援してまいりたいと思っております。

（Gorou 選手）

今回の大会は前回よりもレベルの高い試合を観戦でき、非常に楽しめました。知的・発達障がいのある選手たちが試合の中で戦い方を考え、状況を作り出そうと奮闘する姿には深く感銘を受けました。障がいの有無に関わらず e スポーツで共存できるよう、各タイトルの公式ルールに準じたプレイを検討する設計も一案かと思います。また会場の雰囲気やより e スポーツらしくし、オフライン大会ならではの盛り上げを次回から演出できると、さらに良いイベントになると感じました。

（所属先代表）

【6】 台湾視察団の感想（代表者）

1. 同行者

台湾で e スポーツを取り組む福祉法人の事務方 2 名（女性）

2. 視察の目的

本視察は、アジア大会を見据え、知的障がい・発達障がいのある方々が e スポーツを通じて社会参加の機会を広げることがを目的とし、競技環境、参加者の様子、運営体制等を確認するために視察（体験）して頂いた。また、将来的な大会参加に向けた動機づけや、移動・交流を含む総合的な学びの場としての可能性を検討した。

3. 視察時の感想（閉会式でのコメント）

私は、台湾出身の LIN です。チームを代表して今回のイベントに参加しております。そして、改めてご招待頂いたことに感謝申し上げます。

私たちのチームは、台湾で支援技術を活用し、様々な障害のある方が（身体障害や高齢者、もしくは子ども）一緒にeスポーツを楽しめるように活動しております。

私たちのチームにはベテランの先輩が多数所属しており、約20年前から補助具を活用したeスポーツの推進をはじめ、これまで5回の関連するイベントを開催してきました。近年、テクノロジーとゲームの発展に伴い、私たちも再び補助具を活用した活動を積極的に取り組んでいます。

今回のeスポーツ大会（糸満市）でのイベントは非常に素晴らしく、参加者一人一人が交流し、コミュニケーションを取っていて、また私たちも様々な文化を知る機会となりました。今後も、台湾、沖縄そして日本各地でこのような交流の機会が継続されることを祈っております。

<総括>

今回は第2回目となりました同プログラムですが、2回目と言うこともあり運営自体は比較的スムーズにできたのではないかと思います。前回は、補助金に関して右往左往することがありましたが、今回は最初から補助金ありきで動かなかったことも一つの要因かも知れません。ただ、今後アジア大会へと拡大していくに伴い、補助金のみならず、スポンサーなど外部からの支援なくしては、継続的な運営は厳しさを増していくと予想されます。また、告知に関しましても、当初予定しておりました熊本県からの参加者が地震の影響で参加できなくなるなど、本州からの参加者は「ゼロ人」でした。これも大きな課題となります。また地元においても、沖縄タイムス社様から事前告知のご案内（新聞紙面）を頂きましたが、他社さまも含め、当日の取材は全くありませんでした。翌日には知事選挙ということも背景にはあったかも知れませんが大変残念な結果となりました。

さて、このプログラムは、“くくる糸満”を知的・発達障がい者のためのeスポーツの「聖地」として、毎年開催することを基本目標に掲げ、今回、台湾からの視察団の受け入れを行いました。次年度は、台湾から多くの選手が参加し、今後は、台湾のみならず韓国とも連携していきたいと思います。そしてその後はアジア大会として定着することを視野に入れております。

最後に、様々な困難がありましたが、「共催」の糸満市さまと一緒に開催できたことは大きな一歩となりました。障がいに優しい「糸満市」として、その象徴的なモノになれば、大変うれしく思います。また、当協会の加盟団体であり、今回も実質的な運営を担って頂きました、琉球スポーツサポートの手登根様およびスタッフの皆様にも心より感謝申し上げます。

斎藤 利之（文責）

□フォトギャラリー□

		
会場入り口	糸満市長挨拶	打合せの様子
		
大会の様子 A	大会の様子 B	GOROU 選手解説
		
講演会の様子	スポンサー提供の様子 (永谷園 HD)	スポンサー提供の様子 (パレンテ)
		
スポンサー提供の様子 (大塚製薬)	スポンサー提供の様子 (オリオンビール)	観光（文化交流） 平和学習
		
Gorou 選手との対戦	集合写真	台湾視察団

	(最後)	スピーチの様子
--	------	---------

協賛企業様（順不同）

●永谷園 HD 様 ●株式会社パレンテ様 ●オリオンビール株式会社様